

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	切迫早産治療における子宮収縮抑制薬の終了時期についての検討
研究責任者	伊藤なつみ、山田学
研究機関名	日本赤十字社医療センター 産婦人科
研究目的と意義	切迫早産に対して子宮収縮抑制薬の長期投与が多施設で行われていますが、治療終了時期は統一されていません。当院では未破水の場合、妊娠34週-35週で収縮抑制薬の投与終了としています。それらの症例の周産期転帰を検討することで、治療終了週数の妥当性について検討します。また、治療終了後に早産になった人と正期産になった人でどういった違いがあるのかを調べることも目的としています。
研究方法	<p>【対象となる患者さん】 2015年10月から2017年9月の間に当院に入院し切迫早産の治療を行った方のうち、妊娠34週まで早産に至らず、妊娠34-35週で子宮収縮抑制薬の治療を終了した未破水、単胎妊娠の患者さんを対象としています。分娩経過や児の予後について診療録をもとに匿名化を行った上で後方視的に検討します。</p> <p>【倫理的配慮】 個人情報保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。 上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は産婦人科までご連絡下さい。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 産婦人科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：伊藤なつみ、山田学 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>